

リ機械スルノ目的ナキニ止マラシテ必ズ体温調節作用
ノ一分ヲ擔當スルヤ明カナリ（此間枚舉セラレタル諸實
例ハ略ス）

此外ニ色々生理的、皮膚ハ最モ要用ナル機關ア有ル。」
ヲ證明スルニ足ル所ロノ動物試験又人體ノ皮膚面積幾許
カ火傷ヲ負フ件ハ死ニ至ル等ノ事實ガ有リマス
皮膚ハ簡権ニ生物体ニ取リテ必用ナル機關ア有ル故ニ其
衛生（潔潔ニスルコ等）ノ緊要ナルコハ無論ナリ此レニ付
キテハ又早晩御詔申シマス

○

陸奥龜岡探究記

若林勝邦

龜岡ハ陸奥西津輕郡西北ノ丘陵中ニアル一小村ナリ然レ
ニ此地古ヨリ世ニ名ヲ知ラル、モノハ屢々古代土器數多ヲ
發見スルヲ以テアリ余嘗テ其土器ヲ見ルニ其質ヘ本邦石
器時代ノ遺物ヨリ發見セラル、モノニ異ナラズ而ノ其精
巧ナルヘ余ノ疑ヲ存セシ所ナリ然ルニ此土器ハ古來ヨリ

好事家、藏スル所トナリかめが井水處ト稱ベ其精巧ヲ賞
セシモ何故ニ龜岡村ヘ此等ノ土器ヲ發見シ得ルヤ何故ニ
此土器ヘ繩紋アルニカヘラズ精巧ナルヤ又此土器ノ他
ニ發見セラルモノナキヤ等ノ疑問ヲ起サズ從テ此等
ノ事項ニ關スル考証ヲモ記セズ單ニ愛玩ノ具ニ供セシ
ミコレ余が今回此地ノ探求ニ從事セシ所以ナリトス
余が陸奥西津輕郡龜岡村ニ着セシハ實ニ明治二十二年
七月二十三日ナリトス其日直ニ古來ヨリ土器ヲ發掘セシ
地ヲ巡査シ翌二十四日ヨリ三十一日迄二十四人ノ夫ヲ
使役シ同村宇龜山ノ發掘ニ從事セリ此地ハ即チ古來ヨリ
數多ノ土器ヲ得メ地トス而ノ此地タルヤ西方日本海ヲ距
ル一里東方山田川ヲ扼ル亦一里許ニノ土俗屏風山ト稱ス
ル丘陵中ニアリ十三村ニ至ルノ道路トス左ニ余が此地ヨ
リ發見セシ物品ヲ列記スレバ次ノ如レ
○土器ノ部 土偶 土偶ノ頭 全兩眼 全体ノ殘缺 德
利形ノ土器 萬杯形ノ土器 蛍鉢 土管
帶ヒシ皿ノ縁 百片數多

○陸奥龜岡探究記

五〇一

○陸奥龜岡探究記

五〇二

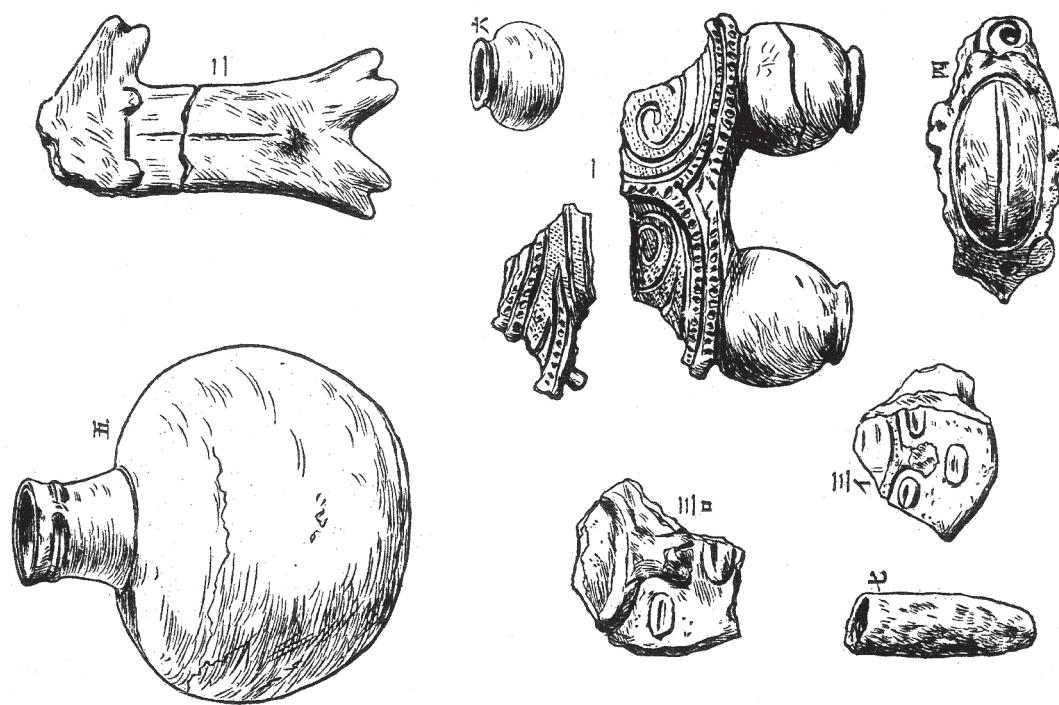
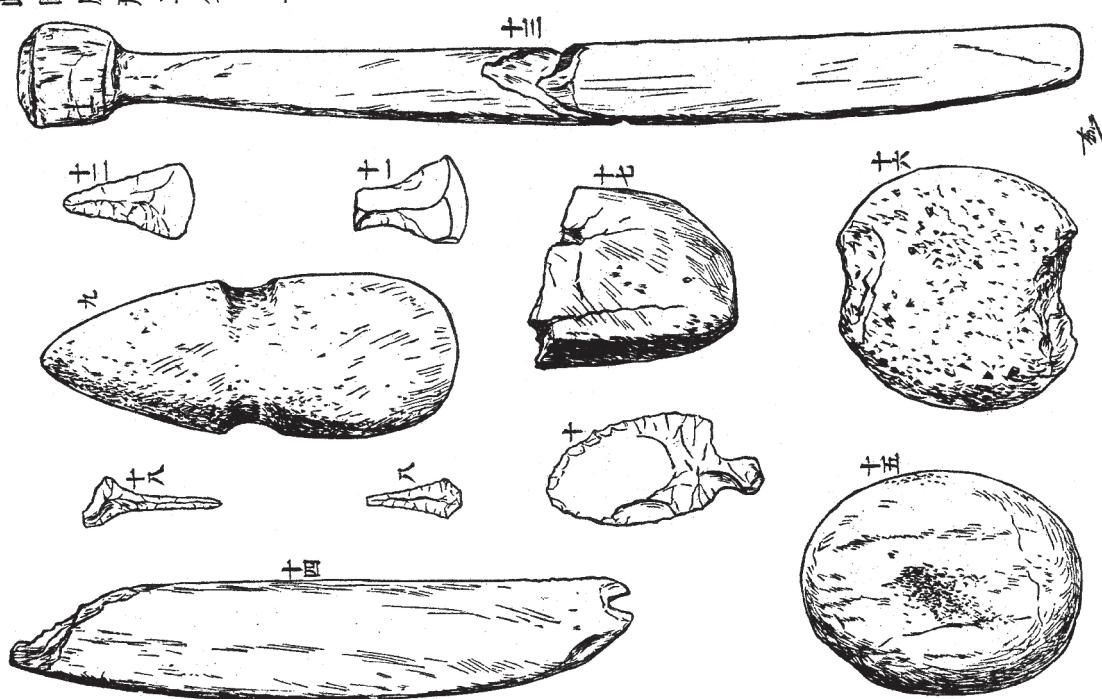
○石器ノ部 石鏃 石斧 石匕 皮劍具二種 石棒 石
錐 斧刀類 槌圓形ノ凹ミアル石器 偏平
ニレテ兩端ヲ打欠キシテ石器 末詳石器

○獸骨
余ヘ次ニ此等ノ發見物ニシテ少ソク略解ア附セシ
(土器ノ部) 古來ヨリ龜山ニ於テ發見セレ土製器物ハ
土偶、壺、鉢、盆類ヲ多レトスコレ好事家ノ愛玩品ニ適セル
ヲ以テ發掘者モ亦注意シ採集セシニヨリ故ニ殘缺ノ今
尙放擱シテ處々ニ散ルヲ見タリ余ハ發掘ニ從事スルト
共ニ此等ノ殘缺ニ注意シ其中ヨリ土偶、頭、石器及ビ參
考トナルベキモノ數多ヲ得タリ

(第一圖)ヘ土偶ナリ高サ一寸八分幅四寸五分トス借哉頭
部ヲ失ヘリ片腕ヲ得タリ其衣服ヲ見ルニ古來ヨリ發見セ
ルモノニ異ナラズ
(第二圖)ヘ土偶ナリ前ノセノト異ナリ偏平ニシテ裝飾ヲ
表ヘス鹿アリ乳及前部ノ合セメヲ示ス首ノ部分ヲ失ヒオ
リ高サ二寸七分幅一寸三分ナリ

(第三圖)ヘ土偶ノ頭ナリ共ニ土器ノ殘缺中ヨリ得イヘ
二分五厘幅廣半部分一寸八分幅一寸トス然レ此幅縫ヘ周
圍ノ欠損セルヲ以テ真ヲ得ル能ヘズロヘ厚三分幅一寸七
分幅凡一寸トス幅ヘ欠損セルヲ以テ充分知ル能ヘズ一ヘ
鼻著シ高ク一ヘ喉著シ太シ而ノ眉ノ連續セルヘ等シ
(第四圖)ヘ土偶ノ眼ノナリ頭飾リ軀ノ殘片共ニ一ヶ所
ヨリ得予其各部ヲ檢スルニ皆テ此地ヨリ得ヌル最大ノ土
偶ニ大サ二倍セリ服飾ノ如キハ臺セ異ナルナシ(此最
大圖)ハ東京ハ類學會鑄
(第五圖)ヘ前ニ德利形ノ土器ト記セルモノシテ高四寸
六分腹徑四寸三分ナリトス繩紋ナキモ其口ノ邊三飾ヲ施
シ赤色ノ染料ヲ塗リシ痕ヲ認ムベシ
(第六圖)ヘ壺ノ底小ナルモノナリ高サ一寸一分腹徑一寸
三分五厘ナリ此等ヘ香料ヲ入ルニ用井シナラン
(第七圖)ヘ土管ナリ長サ一寸二分口徑七分トス一方ヘ塞
リテ底ヲナシ一方ハ脚キテ口ヲナセリ
其他杯洗形ノ土器ヘ高サ三寸口徑五寸アリ其精製ナルコ

此圖原形二分之一



ト九州地方より出土する器物はガラス器又は土器の底
ニ太陽ヲレモノノ得タリ又は土器の縁ニシテ赤色ノ染
料ヲ塗リシモノアリ化學分析ニヨレバコロ酸化鐵ニ
少量ノ硅酸鐵ヲ含ミシモノナリト云フ傍ヨリ此染料數多
ヲ得タリ
(石器ノ部)古來ヨリ龜山ニ於テ發見セシト云フ石器の世
ニ見ルコト少シ故ニ此地ヨリ得ベキ石器の種類ヲ知ル能
ヘザリシガ今回充分ニ採集スルヲ得タリ
(第八圖)ハ石錐ヲ示ス
(第九圖)ハ石斧ヲ示ス今回得セモノ、中形状異ナル
モノナリ腹部ノ凹凸柄ヲ附スルニ便ナラメタルナラシ
(第十圖)ハ石匕ヲ示ス柄ノ部分ニ粘液附セリ柄ニ挿ム
ヌメナラン面ノ其用ハ十一圖十二圖ト全シク皮剝具ナラ
シ
(第十一圖)ハ皮剝具の一様ヲ示ス形状ニ於テハ通例ノ石
錐ト認ムルセ幅廣キ部分ニ刃ヲ有セリ
(第十二圖)モ亦皮剝具の一種ヲ示ス幅廣キ部分刃ヲ有ス
(第十三圖)ヘ石棒ヲ示ス長サ一尺二寸八分幅九分トス此
ノ如キ石棒ハ特ニ東北地方ニ多シ頭部多少ノ彫刻ヲ施ス
(第十四圖)ハ庖刀ノ類ナリ長サ七寸七分幅一寸九分トス
左右ノ端少シク欠損セリ刃ハ鋸ノ
(第十五圖)ハ櫛形圓ノ凹ミアル石器ヲ示ス形状ハ此類ヲ
多シト木質等ヲ碎クニ使用セシナラン横面ニ物ヲ打テ
シ痕アリ
(第十六圖)ハ偏牛ニシテ兩矢キ痕アル石器ヲ示ス
形状圓ノ如キモノ通例ナリ只大小ノ差アルノミ
(第十七圖)モ亦第十四圖ニ類セシ庖刀ヲ示ス刃ハ鏡ノ背
ノ幅廣シ厚サ一寸〇五厘アリ
(第十八圖)ハ石錐ヲ示ス上部鷹ニシテ尖シル方錐レ
以上ハ予ガ龜山ニ於テ新ニ發見セレ遺物ノ概略ナリ而メ
此等、他ニ骨鉤及腰舟ノ此地ヨリ出シヲ見タリ
ヨニ於テ予ハ左ノ事實ヲ知ルヲ得
第一 龜山村字龜山ハ古代ノ土器ヲ發見スルノヨナ
ズ石器、骨器、斷骨ヲモ發見スルコト

○ 陸奥國研究記

卷〇三

○ 眼鏡ニ就テ

第二 此處ヨリ得ル土器、石器、ハ皆本邦石器時代の遺
蹟ヨリ發見スルモノニ等シキト
第三 土器ハ皆精巧ニシテ本邦石器時代の土器中其比
肩見ル少キト
第四 土偶ヲ數多發見ス而ノ其服飾ハ當時の風俗ヲ見
ルニ足ルベキト
第五 石器ハ皆精巧ニシテ龜型石器ハ一モ混セザルコ
ト
第六 鱗骨ヘ發見スルモ貝殻ハ一片モ發見セズ貝殻メ
リレ鱗ヲ認メサルコト
以上ノ事實中土器石器の精巧ナルヲ見レバ當時ノ人民ハ
新石器時代ニ屬スルヲ知ルベク土偶ノ服飾ヲ見レバ全ク
アイヌ人ト異ナルヲ知ルベシ又其土器製法ノ進歩セルハ
現今ノアイヌ人が技術大差アルヲ見ルナラン之ヲ要ス
ルニ此地ハ關東地方ニ散在セル石器時代の遺蹟時代ヲ
等フルモ遙ニ後期ニ屬スルモノタルコト認メタリ然レ
其人種ニ至テハ容易ニ斷言スベカラス予が其遺物ニヨ
リ調査セシ結果ニヨレバ此地ハアイヌ人の遺跡ト認ム
ヨリハ事口他ノ八種ノ遺蹟ト認ムハニ如ケルナリ
○
本題ハ長野縣稻垣貞氏ノ質問ニシテ本誌第九十六號第
百三十二問ニ掲ゲマリシガ今回眼科専門河本教授、詳細
ナル答接得タリ然ルニ近來本邦ニ於テ眼鏡ヲ用ユル
モノ日ニ月ニ増加スルヲ以テ特ニ本欄ニ載セ讀者諸君
ノ一覽ニ供ス
編者識
眼鏡ニ就テ
醫科大學教授 河本重次郎
健康ノ眼ナレバ有色眼鏡ヲ用ユル必要ナシ健眼ヘ白色光
線ヲ恐レズ有色眼鏡中臘色可トス、其何色ノ光線ニ關
セズ光力ヲ減殺スルヲ以テナリ、青色モ亦可ナリ、青色、
眼鏡ヘスベトルム、中赤黃部ノ光線ヲ吸收シテ青紫部
ノ光線ヲ通ズル多キヲ以テナリ、青色ノ光線ヘ赤黃ニ
比スレバ冷淡ナリ質素ナリ纖膜ノ戰術少シ青ハ暗闇ニ及
ブモ他ノ色ニ比シ消失セザル久シ、此事有名ノ理学家